

## <PR アワードグランプリ 2023 エントリーシート>

【エントリー名】 こどもの朝食欠食・孤食問題をこども食堂と共に解決「ケロッグ 毎日朝ごはんプロジェクト」

【事業主体】 日本ケロッグ合同会社

【実施期間】 2022年6月～継続中

エントリー案件に関わるキーワードがあれば✓してください。✓の有無や数は評価に関係ありません。（複数可）

✓ コーポレート・コミュニケーション    □ コーポレートブランド    □ インターナルコミュニケーション    □ リスクコミュニケーション    □ マーケティング・コミュニケーション  
□ 新商品コミュニケーション    □ ロングセラーコミュニケーション    ✓ ソーシャルグッド    □ グローバル    □ 新手法開発    □ 自社コンテンツ開発（著作）

パブリックリレーションズとしての視点： **Why Public Relations? ～こども家庭庁の発足で注目される“こどもの課題”を地域との共創で解決～**

- コロナ禍の健康志向の高まりと在宅時間の長期化を背景に、自宅で手軽にとれる栄養バランスの良い食事として需要が拡大したケロッグのシリアル。
- 一方、シリアル最大の喫食機会である朝食市場では、こどもの朝食欠食が問題視されている。文部科学省が2021年8月に発表した「全国学力・学習状況調査」によると、小中学生ともに朝食を食べない割合が年々増加。朝食を食べない子どもほど体力テストと学力テストの結果が低く、成長期のこどもの朝食欠食は、体力がつかないだけでなく、学力の低下など、様々な悪影響をもたらすことがわかっている。
- 加えて、こどもの孤食も軽視できない問題に。社会全体で共働き世帯が増加したことで、こどもが一人だけで食事をするケースが増えている。本来は楽しさや喜びなどポジティブな感情の中で食事をとることで、消化液の分泌が促され、栄養吸収が底上げされるが、孤食の場合それが阻害されてしまう。ゆえに孤食は栄養面への懸念だけでなく、消化や精神面へもネガティブな影響を及ぼす可能性があることが指摘されている。
- こうした社会背景を踏まえて、**朝食シリアルのバイオニアであり、「世界中の人々が食だけでなく心まで満たされる善良で、正しい社会」の実現をビジョンに掲げる日本ケロッグ**が、地域のこども食堂と連携したプログラムをスタート。こども食堂にシリアルを無償提供することで、これまで主に夕食の提供を通じてこどもたちの問題を解決してきたこども食堂を、“朝ごはんでも利用できる場”へと拡張し、こどもの朝食欠食と孤食の解決を試みる取り組みである。

解決すべき課題： **Challenges ～家庭内だけでは解決が難しいこどもの孤食問題～**

- 解決すべきは栄養不足にもつながってしまうこどもの朝食欠食と孤食。特に孤食は両親のワークスタイルに左右されることから、家庭内の努力だけで解決するのが難しい課題であり、家庭以外の場でこどもたちが朝食をとれる機会を提供する必要があった。

課題解決のための戦略： **Strategy & Research ～朝食を提供したくてもできなかった「こども食堂」との協働～**

- 家庭以外の場で朝食を提供する場として選んだのは「こども食堂」。おなかをすかせたこどもへの食事提供から、孤食の解消、滋味豊かな食材による食育、地域交流の場づくりと、さまざまな目的で運営され、こどもが自宅や学校以外で様々な人たちと出会い、学び、成長できる場でもある。今や全国6000箇所以上に広がり、地域のコミュニティやインフラとしても機能しているこども食堂と連携することで、地域全体でこどもの朝食をサポートしようと考えた。
- なお今年6月にケロッグが実施した調査では、こども食堂運営者の約2人に1人が「朝食を食べていない」こどもを認識。理由として「親が作らない」「経済的に余裕がない」「家に食べるものがない」等が挙げられている。一方、92%のこども食堂では朝食の提供をしておらず、そのうち4割は**人材・資金不足、食材の確保が難しい**といった理由から「朝食を提供したくてもできない」と回答している。

課題解決のための独創性あるアイデア： **Idea ～地域一体で新たな朝食コミュニティを創造～**

- 大きく二つのコラボレーションを計画。ひとつは、こども食堂との協働を通じて朝食を食べられる場を家庭以外に広げること。こども食堂のほとんどが夕方から夜にかけて食事を提供するなか、ケロッグは**“朝のこども食堂”**に着目。こども食堂の朝の時間帯を、登校前に友達と一緒に栄養満点の朝食を食べられる場所へとアップデートすることで、新しい朝食コミュニティの創造を目指した。
- 二つ目は、小学校とも協働し、こどもが朝食の大切さを学ぶ機会を広げること。小学校側も食育の必要性を課題に挙げているなかで、学校の先生からこどもや保護者に対して朝食の重要性や栄養について発信できる機会の創出を目指した。

活動内容の専門性または完成度： **Execution ～こども食堂にシリアルを無償提供する継続的なプログラムを開始～**

- 一過性のキャンペーンではなく中長期的なこどもの朝食支援施策として「ケロッグ 毎日朝ごはんプロジェクト」を発足。
- こども食堂との協働では、こどもの朝食摂取機会を増やすべく、こども食堂の朝食メニューに栄養満点のケロッグのシリアルなどを定期的に無償提供するプログラムを開始。登校前に、友達や親子、こども食堂のスタッフと一緒に、栄養バランス満点の朝ごはんを楽しく食べてもらい、元気な一日のスタートを支援している。
- また、全国の先生をつなぐネットワークを持つ株式会社ARROWSと協働し朝食の大切さを学ぶ授業プログラムを開発。ケロッグのキャラクターであるトニー・ザ・タイガーや、ココくんが登場するクイズなどの映像教材やワークなどを通してこどもたち自身が朝食をとることの大切さや、栄養バランスのよい食事とは何かを考えられる授業コンテンツを日本各地の小学校に無償提供している（2022年度は318の小学校で実施され、約3万3千人のこどもたちがプログラムを体験）。保護者にも同様の意識を持ってもらうべく、保護者向けのおたよりを通じた情報共有、シリアルのサンプル提供を通じて、家庭での朝食摂取の習慣づくりを後押しした。
- こうした地域一体でのサポートを形にするにあたり、**こども食堂や小学校には何度も足を運び、意見や規制などを吸い上げながらプログラムの詳細を設計**。こどもの栄養の専門家にも監修を依頼し、こどもたちの心身の健やかな成長に寄与する取り組みとしてプロジェクトを継続・拡大している。

目標に対する直接的・間接的な成果・評価： **Results ～登校前に友達と一緒に朝ごはんを食べる習慣が誕生～**

- 2030年までに全国47都道府県での実施拡大を目指し、これまでに**16都道府県32カ所**のこども食堂や児童養護施設などにケロッグのこども向けシリアルを定期的に無償提供（2023年10月10日現在）。2022年6月のプロジェクト開始から約1年3か月で**計約6万食の朝食を提供**している。
- ケロッグのシリアルはこどもたちに大人気で、登校前のこども食堂のシリアルコーナーにこどもたちが群がり、友達と一緒に楽しく朝ごはんを楽しく食べるといった、**孤食とは真逆の光景**が生まれている。朝食を提供しているこども食堂では、「笑顔が増えた/元気になった」、「不登校が改善された/なくなった」、「遅刻が改善された/なくなった」などのこどもたちの変化を示す声も挙がっている。
- 手軽で簡単に栄養バランスの良い食事がとれるシリアルの無償提供は、**朝食を提供したくてもできなかったこども食堂のニーズを満たすアクション**としても支持されており、日本各地のこども食堂や自治体からの問い合わせが継続。滋賀県とは本プロジェクトの推進に向けた包括的連携協定にも発展するなど、地域全体でこどもの朝食課題を解決する機運が広がっている。